



本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

# 嘉手納町 教育委員会だより

令和8年2月発行 嘉手納町教育委員会



## 自立を育む舞台を堂々と披露！ 嘉手納幼稚園で生活発表会

1月30日、嘉手納幼稚園で生活発表会と学力向上推進報告会が開かれました。報告会では「自ら進んで自分のことをしようとする子の育成」をテーマに、教育実践が共有されました。日々の挨拶や整理整頓による自立心の育成、野菜栽培や昆虫の飼育を通じた生命尊重、帰りの会での意見発表など、教師の関わりを通じて子どもたちの主体性を引き出す取り組みが報告されました。続く発表会では、年長児の合奏で華やかに幕開けしました。年少のリズムや年中・年長の劇遊びを通し、日々の学びで培った確かな表現力を披露。最後は全園児による手話ソングが会場を包み、たくましく成長した姿に大きな拍手が送られました。



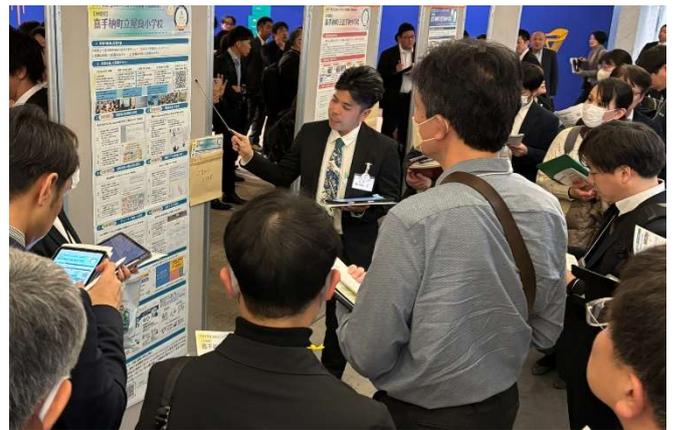
## あふれる熱気と感動、絆を深めた「屋良っ子フェスティバル」

2月15日、屋良小学校体育館において、「屋良っ子フェスティバル」が開催されました。ステージに立つ子どもたちの真剣な眼差しと堂々とした振る舞いは、観る者の胸を熱くする素晴らしいものでした。特筆すべきは、小学校生活最後を飾った6年生の発表です。「命（ぬち）ぬ、いも」と題し、ガマ体験から学んだ戦争の現実と平和への祈りを全身で表現しました。命を救った野国いもの歴史に自身の思いを重ね、「二度と戦争を繰り返さない」という不戦の誓いを力強く宣言する姿には、6年間の成長の集大成がありました。そのほか、1年生の初々しい挨拶や、3年生による「野国総管物語」など、全学年が地域学習の成果を堂々と披露。仲間と支え合い、心を一つにして創り上げたステージは、会場全体を大きな感動で包み込みました。



## 嘉手納の教育 DX・文部科学省主催の学習会で成果を全国へ発信！

2月2日、東京ビッグサイトにおいて、文部科学省主催「生成 AI の利用に関する冬季公開学習会」が開催されました。本町からは、生成 AI パイロット校である屋良小学校・嘉手納小学校・嘉手納中学校が参加し、一年間にわたる研究成果を発表しました。会場では、生成 AI を「校務利用」として、行事案内や通知文の作成、学校評価アンケートの内容分析、研究授業の分析などを、また、「教育利用」として、各教科での「ふり返りくん」の活用、英語の音読支援、体育の動画解析など、具体的な取り組みを紹介しました。ポスターセッションでは全国の教育関係者と活発に意見を交わし、本町が積み上げてきた活用の「現在地」を力強く発信。AI を学びのパートナーとして使いこなす嘉手納の挑戦は、次世代の教育を切り拓く大きな一歩となっています。



## 祝・全国 ICT 教育首長協議会会長賞を受賞！

この度、本町が「第 8 回日本 ICT 教育アワード」において、全国 ICT 教育首長協議会会長賞を受賞しました。本アワードは、首長の主導のもと教育委員会と連携し、ICT 活用で教育水準の向上や魅力あるまちづくりを実現している自治体を顕彰するものです。本町は、「生成 AI100 事例」として、授業での学習活用から教職員の校務効率化まで、町全体で情報活用能力の育成に取り組んでいる点が高く評価されました。去る 2 月 3 日、東京都で開催された首長サミットには浦崎直哉教育長が出席し、本町の先進的な事例を全国へ発信しました。今後も、未来を担う子供たちのために、質の高い教育環境の充実に努めてまいります。



## 未来を拓く、技術と現場力。STEAM 教育成果発表会開催

2月10日、かでな未来館において、「令和7年度 STEAM 教育推進事業成果発表会」を開催しました。本事業は沖縄県産業ドローン協会に委託し、専門家と中高生が協働で取り組んできたものです。当日の注目は、ドローンを活用した災害現場のシミュレーション。本番直前のメンバー欠席という予期せぬ事態にも、生徒たちは動じることなく臨機応変に対応し、見事な「ぶっつけ本番」のチームワークを披露しました。技術の操作だけでなく、予測不能なトラブルを乗り越える「現場の適応力」こそが、この学びの大きな成果です。「正解のない問いに立ち向かう楽しさを知った」と語る生徒たちの姿に、次世代を担う頼もしさを感じた一日となりました。



## 未来は自分たちで創る！～嘉手納っ子の熱い提言が議場を動かした一日～

町制施行 50 周年を記念し、2 月 18 日に嘉手納町議会会議場で「子ども議会」が開催されました。小中学生 17 名の「子ども議員」が、本物の議場さながらの緊張感の中で、町政への熱意ある提言を行いました。比謝川の環境活用や基地内交流、暑さ対策など、子どもならではの鋭い視点から発せられた質問に対し、各担当課長たちは、一問一答ごとに真摯に向き合い、専門的な知見から丁寧に答弁しました。大人と子どもが対等に町の未来を語り合う、密度の濃い議論が展開されました。すべての一般質問が終わった後、議会を締めくくる挨拶に立った德里織音議長（嘉手納中 2 年）は、「嘉手納町の未来は待つのではなく、自分たちで創る」と力強く宣言。その前向きな言葉は、会場を大きな感動で包み込みました。自ら考え、行動する「かでなっ子」の姿に、町の明るい未来を確信した一日となりました。

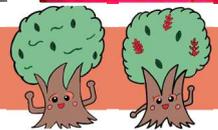


## 「友情の懸け橋」を未来へつなぐ ～児童交流事業報告会を開催～

2 月 25 日、かでな未来館において、「令和 7 年度嘉手納町・大山町児童交流事業報告会」が開催されました。会場では、派遣された小学 5 年生の児童たちが、夏の受入と冬の派遣での思い出を発表。「初めてのスキーに苦戦したけれど、大山町の友だちが励ましてくれた」といった、心温まるエピソードが次々と披露されました。続くスライドショーでは、雪国での挑戦や笑顔溢れる交流の様子が映し出され、会場は温かな拍手に包まれました。浦崎直哉理事長は、慣れない環境へ一歩踏み出した児童の勇気を称え、「この絆を大切に、何事にも挑戦し続けてほしい」と激励。両町の深い絆と、児童たちの確かな成長を実感する貴重な機会となりました。



## 嘉手納小学校の誇り「大デイゴ」の歴史を次世代へ



2 月 10 日、嘉手納小学校において、町指定文化財「嘉手納小学校の大デイゴ」の講演会と説明板除幕式が開催されました。講演会では樹木医の樋口純一郎氏が講師を務め、4～6 年生へ樹齢 120 年を超える大デイゴの歩みや琉球文化との関わりを解説。続く除幕式では、4 年生の平安ひなのさんが描いたイラスト（デイゴとデイゴ）入りの新説明板がお披露目されました。浦崎直哉教育長は「学校を見守る生きた証人を大切にしてほしい」と語り、児童らは郷土の宝を未来へ繋ぐ決意を新たにしました。教育委員会は今後も、町のシンボルである文化財の保存と継承に努めてまいります。



## 第 32 回嘉手納町文化祭 ～郷土を愛する心が舞台に結実～

2月11日、かでな文化センターにおいて、「第32回嘉手納町文化祭」が盛大に開催されました。本祭典は、地域文化の継承と発展を目指し、出演者が一年間積み重ねてきた練習の成果を披露する貴重な機会です。午後2時に幕を開けた舞台は、多彩な演目で観客を魅了しました。昼の部では古典音楽や琉球舞踊が伝統の重みを伝え、若さあふれるダンスが会場を沸かせました。夜の部では大正琴や日本舞踊、吹奏楽が彩りを添え、民話やうちなーぐち、民謡の披露では、地域の先人たちが守り伝えてきた言葉や調べが、出演者の力強い声となり、会場の皆さまと分かち合われました。一日限りの開催でしたが、出演者の熱意が町民の皆さまの心に豊かな感動を刻む、実り豊かな一日となりました。



## 嘉手納町文化講演会を開催 ～「楽しい」が未来を拓く、学びのエンジンに～

2月21日、かでな文化センターにおいて、クイズプレイヤーの伊沢拓司氏を講師に招き、文化講演会を開催しました。演題は『『楽しい』から始まる学び』。会場には小学生から一般まで、幅広い世代の町民が集まりました。伊沢氏は、勉強を楽しくする秘訣として「自身の成長への注目」を挙げ、「できなかったことができるようになる喜び」こそが学びの原動力だと語りました。「知る」ことが「楽しい」につながり、さらなる意欲を生む好循環（ループ）は、かつて先人たちが大切にしていた『頭を耕す（知恵を磨き、自ら考え抜く）』という学びの精神にも通じる、とても大切な姿勢です。参加者からは「学ぶことへのワクワクを感じた」との声が寄せられ、一人ひとりの心に「学びのエンジン」が始動する、有意義な時間となりました。



## 祝・全国スポーツ推進委員連合表彰！嘉手納町スポーツ推進委員が受賞

11月13・14日、長野県で開催された「全国スポーツ推進委員研究協議会」において、嘉手納町スポーツ推進委員のみなさんが、令和7年度全国スポーツ推進委員連合表彰（優良団体）を受けました。本協議会は、全国の委員が一堂に会し、地域スポーツの課題研究や資質向上を通じて生涯スポーツ振興を図る場です。今回、長年にわたる地道な普及活動と貢献が高く評価されました。後日、上地絹代会長が町長・教育長へ受賞を報告。「今回の栄誉を励みに、今後も町民の皆さんが気軽にスポーツに親しめる環境づくりに邁進します」と力強く抱負を述べました。地域の健康と絆を支える皆さんのさらなる活躍を期待しましょう！

